

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：26002

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇R6までの実践を通し、児童アンケート「素直である。」「相手を見て話を落ち着いて聞く。」「自分でやると決めたことをやり遂げたいと思う。」の項目において肯定的回答が高く、課題を自分事として捉えて学びに向かう学習の充実を推進した成果が見られている。</p> <p>◇R7の実践から、児童アンケート「自分の考えを発表したり友達に伝えたりしている。」「自分の考えが、人の役に立っている。」といった、友達との関わりを通して課題解決を図ろうとする項目において、否定的回答が減った成果がある。</p>	<p>◇R7までの実践において、授業では子どもたちの交流・協働の場を積極的に設定するよう意図したが、「どの子も言語を介した交流ができるようになる具体的な支援の不十分感」や「学習の見通しをもつこと」「思考を整理したり言語化したりする姿」などに課題があると教職員が感じている。</p> <p>◇交流することの目的や価値について、子どもと授業者が共通理解をもつことや、学習活動によって何が身に付いたのか、言語で振り返ることに苦手を感じている子や、学びの足跡を集団で共有することが出来る機会・環境的配慮の余地がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
◇これまでの実践から、友達と交流する事に抵抗が減ってきている。一方で、交流の目的や、身に付いた力を振り返る経験を積ませ、次の課題に向かって主体的に解決しようとする態度を育てたい。	

## 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力 主体的に学び、自己価値を高めていく力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p><b>研究副主題「他者と関わり、深め合うことで自己を認める授業」の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが問いをもち、交流を通して課題を解決し、次の問いをもてる教材化・単元構成を工夫する。</li> <li>問いを解決する中で自己肯定感をもてるようになる教師の関わりを意図する。</li> <li>学びのUDの考え方のもと、学習環境に関して共通理解を深め、どの子も授業に主体的に取り組むことができるよう工夫する。</li> <li>副主題に基づき、全ての学年担任が日常の学習の基礎となる国語・算数部に分かれ互いの授業について研鑽する機会を設定する。</li> <li>教職員がそれぞれの強みを共有し、相互に支え合うための研修を充実する。</li> </ul>	<p><b>安心できる所属感を実感しながら、自信をもつ姿を育てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校児童が交代で挨拶活動等を行うなど、日常的に子ども同士のつながりを育み、自ら生活の向上を図ることができる力を育む。</li> <li>成功体験だけでなく、失敗や考えが変化した経験を言語を介して振り返ることで、自分の成長を自覚し、困難を乗り越えていける力（レジリエンス）を育む。</li> <li>課題解決に向けて目的を共有し、互いの多様な意見を認め合い、尊重することで、周りとかかわりを広げながら解決することのよさと安心感を実感できるようにし、自信へとつなげる。</li> </ul>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇デジタル機器がスムーズに活用できるよう教職員の理解を深める。</p> <p>◇発達段階に応じたICT機器活用のスキルを全校的に底上げしていくカリキュラムの共有。</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

